

各測定所における環境試料中の核種分析調査結果
【環境放射線等モニタリング調査】

大気浮遊じん

放射化学分析

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和5年4月 - 令和6年3月		令和2年4月 - 令和5年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND	ND	ND	ND - 0.0013	ND	ND - 0.0026
竜飛岬	ND - 0.0042	ND - 0.0017	ND - 0.013	ND - 0.0016	ND	ND
佐渡関岬 ^{※1}	ND	ND	ND	ND - 0.0012	ND	ND
越前岬	ND	ND	ND	ND - 0.0010	ND	ND
隠岐	ND	ND	ND	ND - 0.0016	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	ND	ND - 0.0011	ND	ND
檮原	ND	ND	ND	ND - 0.0015	ND	ND - 0.0038
対馬 ^{※2}	ND	ND	ND	ND - 0.0011	ND	ND
五島	ND	ND - 0.00092	ND	ND - 0.0079	ND	ND - 0.0013
辺戸岬	ND	ND - 0.0010	ND	ND - 0.0011	ND	ND - 0.0015

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

※1 佐渡関岬測定所は暴風雪の影響により停電が発生し、令和3年1月7日～令和4年5月25日の期間は試料が採取されていない。

※2 対馬測定所は落雷により機器不具合が発生(令和5年6月28日～9月19日)し、第2四半期(7～9月期)分において吸引量が少ない(通常の1/9程度)。この試料については、すべての核種の分析結果において参考値とする。

大気浮遊じん

単位:mBq/m³

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R5/4/2-7/1	20905253	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	1.9 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/7/1-9/28	20905253	13600	(< 0.006)	(< 0.004)	1.6 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/28-R6/1/4	20905253	14400	(< 0.008)	(< 0.005)	1.7 ± 0.18	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R6/1/4-4/1	30801052	13000	(< 0.01)	(< 0.007)	1.9 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.0009)
竜飛岬	R5/3/31-6/30	20905253	13100	(< 0.009)	(< 0.006)	2.2 ± 0.07	0.0042 ± 0.00077	(< 0.002)
	R5/6/30-9/29	20905253	13500	(< 0.008)	(< 0.006)	1.9 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/29-12/28	20905253	13500	(< 0.009)	(< 0.006)	2.7 ± 0.22	(< 0.002)	0.0017 ± 0.00036
	R5/12/28-R6/3/29	30801052	13700	(< 0.007)	(< 0.006)	2.4 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.0009)
佐渡関岬	R5/3/30-6/30	20905253	14400	(< 0.007)	(< 0.005)	2.7 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/6/30-9/29	20905253	14400	(< 0.008)	(< 0.006)	1.7 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/9/29-12/27	20905253	14100	(< 0.01)	(< 0.006)	2.6 ± 0.20	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/12/27-R6/3/29	30801052	14200	(< 0.008)	(< 0.006)	2.8 ± 0.12	(< 0.002)	(< 0.0009)
越前岬	R5/3/20-6/21	20905253	13900	(< 0.02)	(< 0.007)	3.1 ± 0.11	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/6/21-9/22	20905253	14000	(< 0.008)	(< 0.005)	1.3 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/22-12/19	20905253	12700	(< 0.01)	(< 0.006)	2.4 ± 0.23	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/12/19-R6/3/19	30801052	13400	(< 0.009)	(< 0.006)	2.9 ± 0.12	(< 0.002)	(< 0.0009)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気浮遊じん

単位:mBq/m³

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隠岐	R5/3/22- 6/28	20905253	13700	(< 0.008)	(< 0.006)	2.6 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/6/28- 9/27	20905253	13200	(< 0.008)	(< 0.006)	1.5 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/27- 12/22	20905253	13100	(< 0.009)	(< 0.006)	3.5 ± 0.23	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/12/22- R6/3/21	30801052	13700	(< 0.008)	(< 0.006)	3.1 ± 0.12	(< 0.002)	(< 0.0009)
蟠竜湖	R5/3/23- 6/26	20905253	13200	(< 0.007)	(< 0.006)	2.5 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/6/26- 9/25	20905253	13400	(< 0.008)	(< 0.006)	1.2 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/25- 12/25	20905253	12800	(< 0.009)	(< 0.006)	3.1 ± 0.26	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/12/25- R6/3/25	30801052	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	2.7 ± 0.12	(< 0.002)	(< 0.0009)
禰原	R5/3/27- 6/19	20905253	12700	(< 0.009)	(< 0.006)	3.1 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/6/19- 9/25	20905253	14500	(< 0.007)	(< 0.005)	1.1 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/9/25- 12/18	20905253	12300	(< 0.009)	(< 0.007)	3.6 ± 0.31	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/12/18- R6/3/25	30801052	14600	(< 0.008)	(< 0.005)	2.4 ± 0.11	(< 0.002)	(< 0.0008)

大気浮遊じん

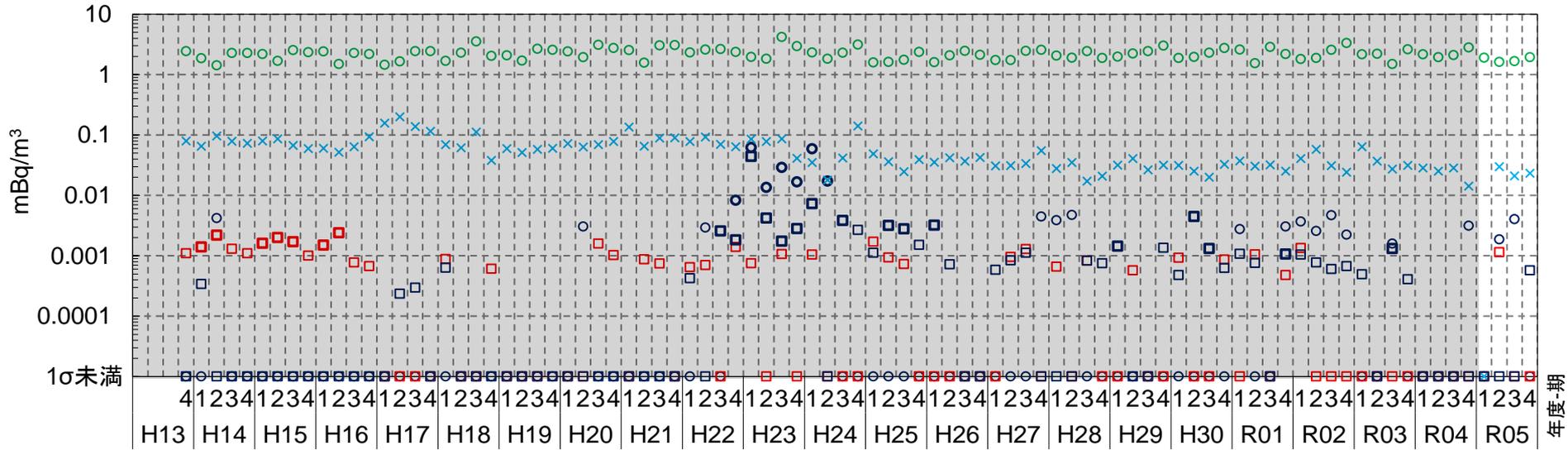
単位: mBq/m³

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
対馬	R5/3/27-6/23	20905253	12600	(< 0.009)	(< 0.006)	3.4 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/6/23-9/26	20905253	※1 1500	(< 0.03)	(< 0.02)	15 ± 0.2	(< 0.02)	(< 0.009)
	R5/9/26-12/25	20905253	13200	(< 0.005)	(< 0.003)	3.2 ± 0.12	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/12/25-R6/3/22	30801052	12500	(< 0.005)	(< 0.004)	3.1 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
五島	R5/3/28-6/23	20905253	12600	(< 0.008)	(< 0.006)	2.9 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/6/23-9/25	20905253	14600	(< 0.007)	(< 0.006)	1.4 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.001)
	R5/9/25-12/25	20905253	14000	(< 0.009)	(< 0.006)	3.5 ± 0.27	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R5/12/25-R6/3/22	30801052	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	3.0 ± 0.13	(< 0.002)	0.00092 ± 0.00028
辺戸岬	R5/3/27-6/19	20905253	10300	(< 0.01)	(< 0.008)	3.2 ± 0.11	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/6/19-9/11	20905253	10600	(< 0.01)	(< 0.007)	1.5 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	R5/9/11-R6/1/4	20905253	18100	(< 0.007)	(< 0.005)	2.8 ± 0.19	(< 0.002)	(< 0.0007)
	R6/1/4-3/25	30801052	12700	(< 0.01)	(< 0.006)	2.9 ± 0.13	(< 0.002)	0.0010 ± 0.00029
ろ紙 Lot. 20905253			-	(< 0.2) Bq/試料	(< 0.08) Bq/試料	-	0.027 ± 0.0077 Bq/試料	(< 0.02) Bq/試料
ろ紙 Lot. 30801052			-	(< 0.2) Bq/試料	(< 0.09) Bq/試料	-	(< 0.03) Bq/試料	(< 0.02) Bq/試料

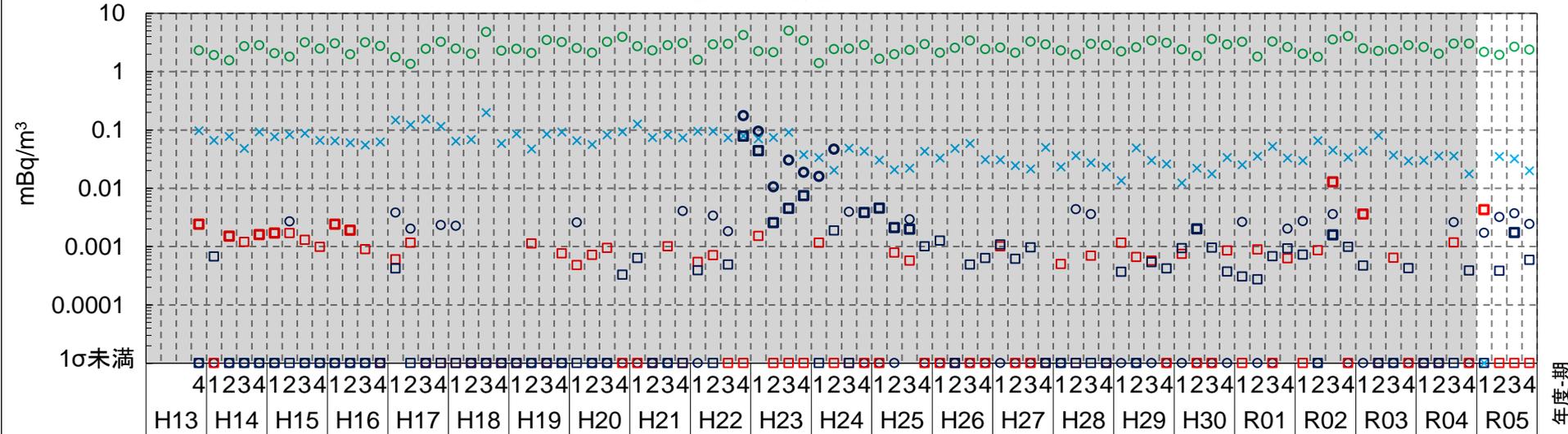
※1 落雷により機器不具合が発生(令和5年6月28日~9月19日)し、吸引量が少ない(通常の1/9程度)。この試料については、すべての核種の分析結果において参考値とする。

大気浮遊じん

利尻測定所

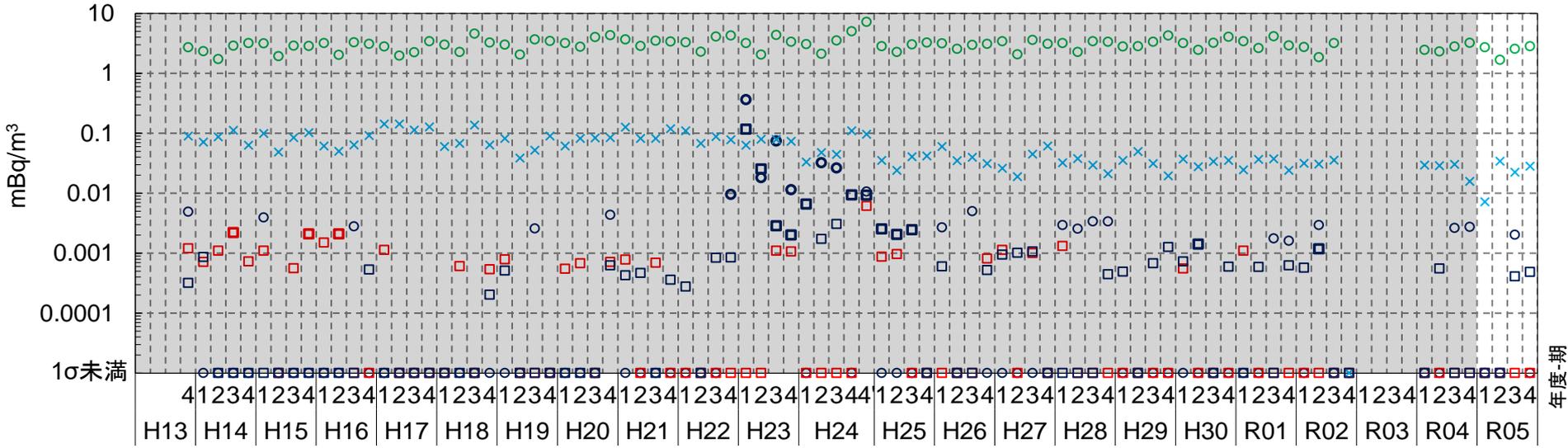


竜飛岬測定所

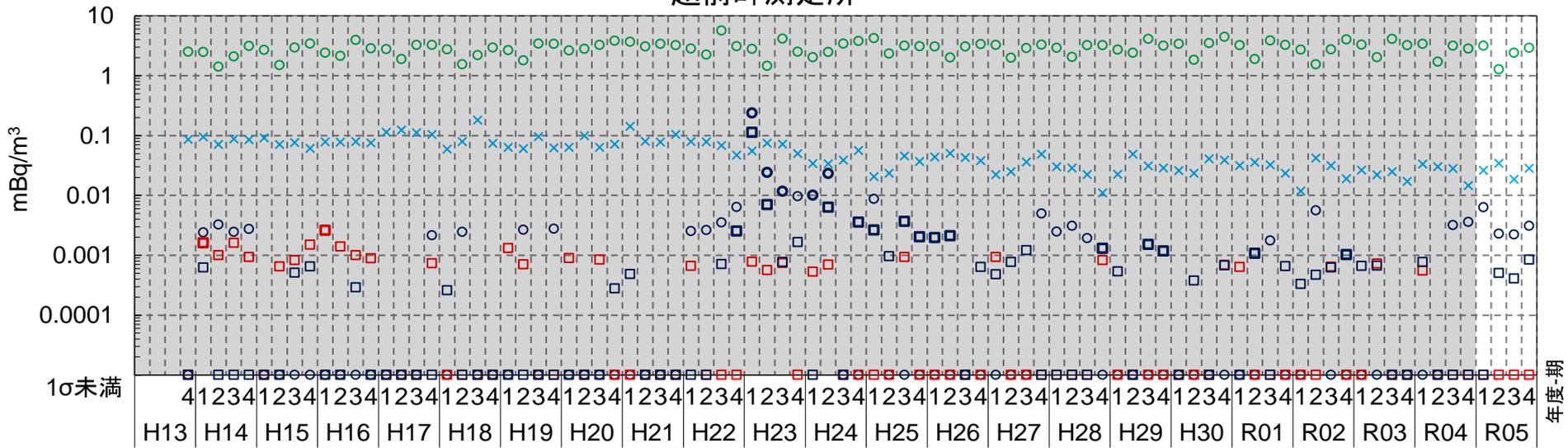


大気浮遊じん

佐渡関岬測定所

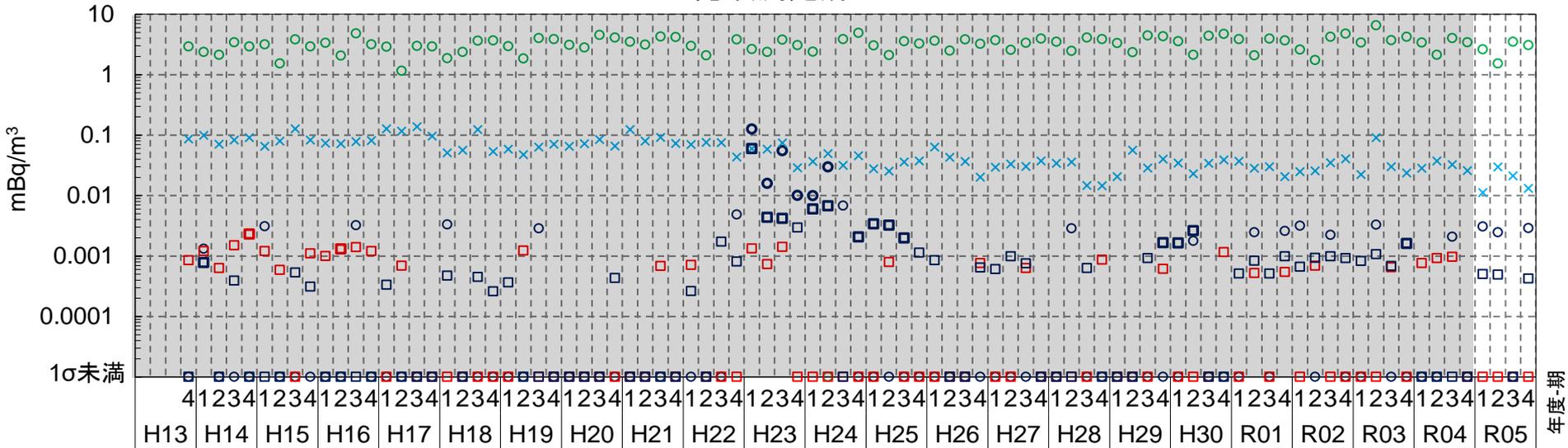


越前岬測定所

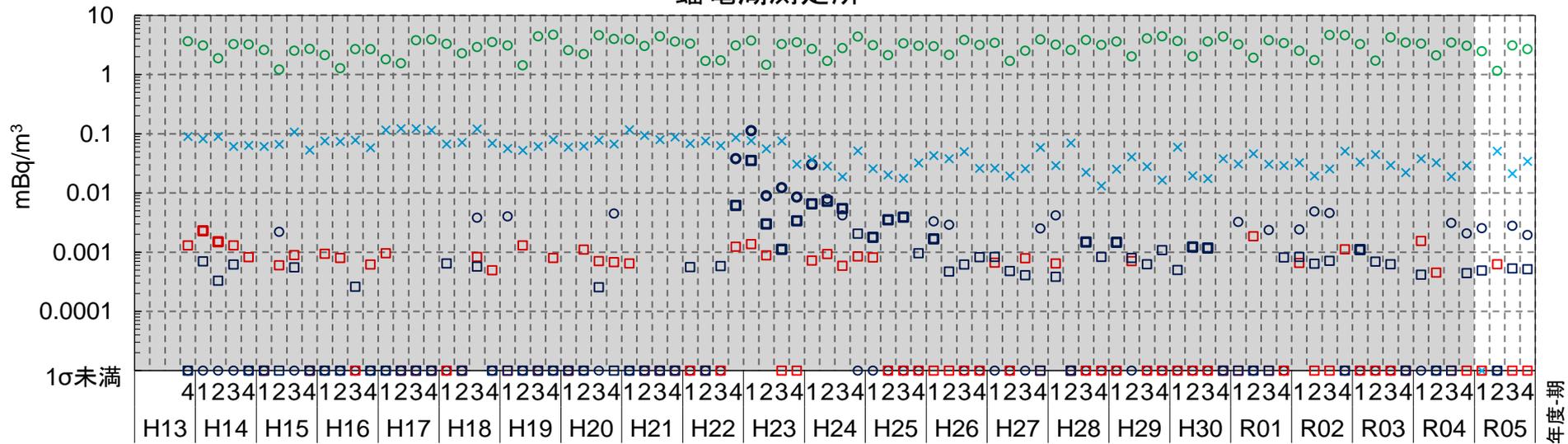


大気浮遊じん

隠岐測定所

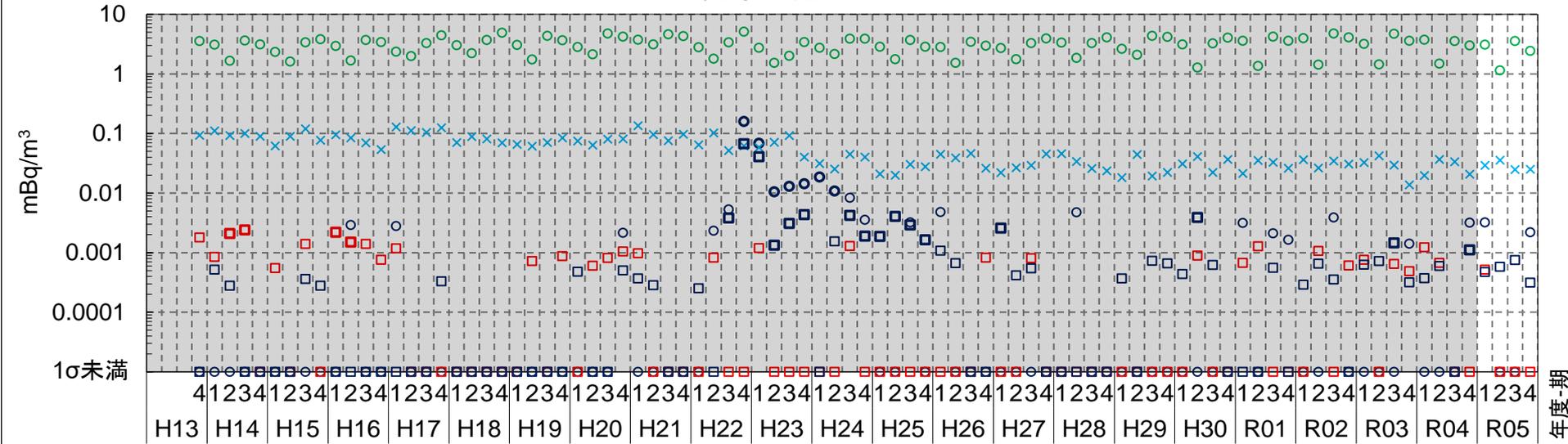


蟠竜湖測定所

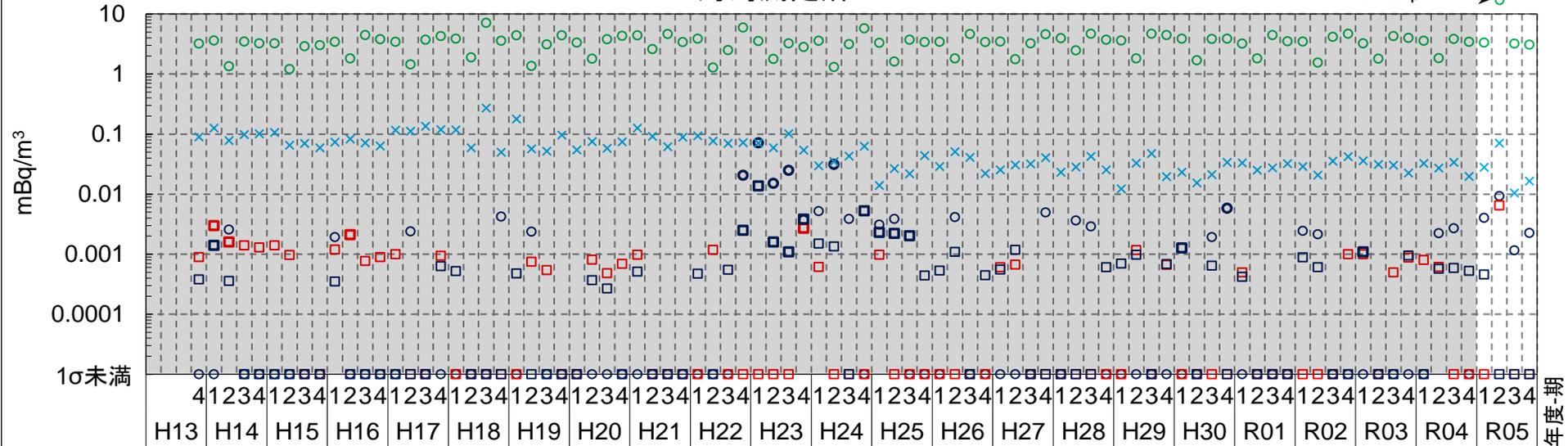


大気浮遊じん

橿原測定所

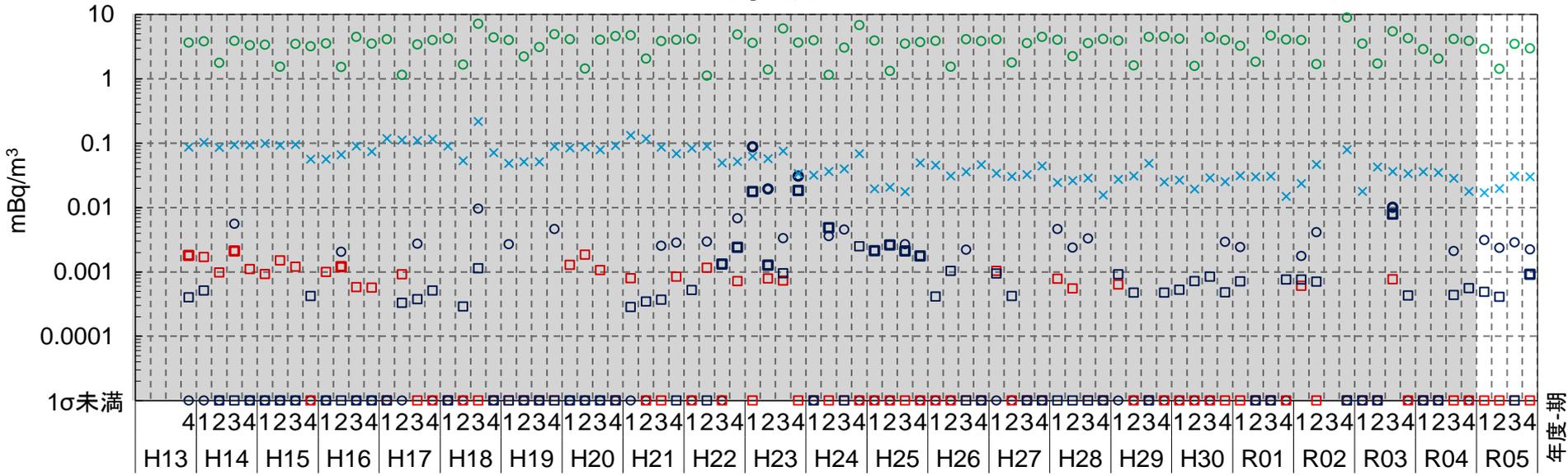


対馬測定所

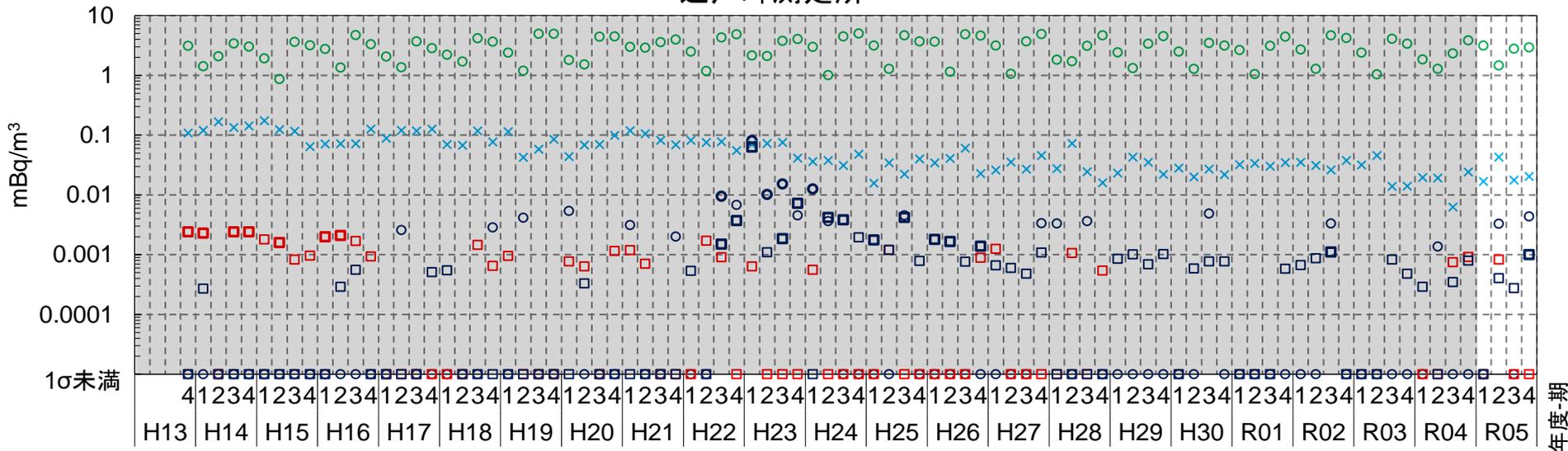


大気浮遊じん

五島測定所



辺戸岬測定所



大気降下物

放射化学分析

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和5年4月 - 令和6年3月		令和2年4月 - 令和5年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND - 0.042	ND - 0.12	ND - 0.067	ND - 0.10	ND - 0.29	ND - 0.23
佐渡関岬	0.096 - 1.2	0.033 - 0.12	ND - 2.1	ND - 0.058	ND - 0.30	ND - 0.16
隠岐	ND - 0.081	ND - 0.059	ND - 0.18	ND - 0.073	0.12 - 0.76	ND - 0.15
五島	ND - 0.063	ND - 0.032	ND - 0.49	ND - 0.031	ND - 0.12	ND - 0.098

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

大気降下物

単位: MBq/km²

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R5/4/2-7/1	(< 0.09)	0.11 ± 0.018	240 ± 2	0.042 ± 0.012	0.12 ± 0.012
	R5/7/1-9/28	(< 0.06)	(< 0.04)	200 ± 2	0.041 ± 0.012	(< 0.03)
	R5/9/28-R6/1/4	(< 0.08)	(< 0.07)	460 ± 5	(< 0.04)	0.034 ± 0.0079
	R6/1/4-4/1	(< 0.07)	(< 0.05)	260 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)
佐渡関岬	R5/3/30-6/30	(< 0.1)	0.12 ± 0.020	230 ± 2	0.10 ± 0.016	0.087 ± 0.011
	R5/6/30-9/29	(< 0.1)	(< 0.06)	140 ± 2	0.46 ± 0.029	0.044 ± 0.0094
	R5/9/29-12/27	(< 0.2)	(< 0.08)	300 ± 7	1.2 ± 0.04	0.033 ± 0.0092
	R5/12/27-R6/3/29	(< 0.2)	0.19 ± 0.029	330 ± 3	0.096 ± 0.018	0.12 ± 0.013

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

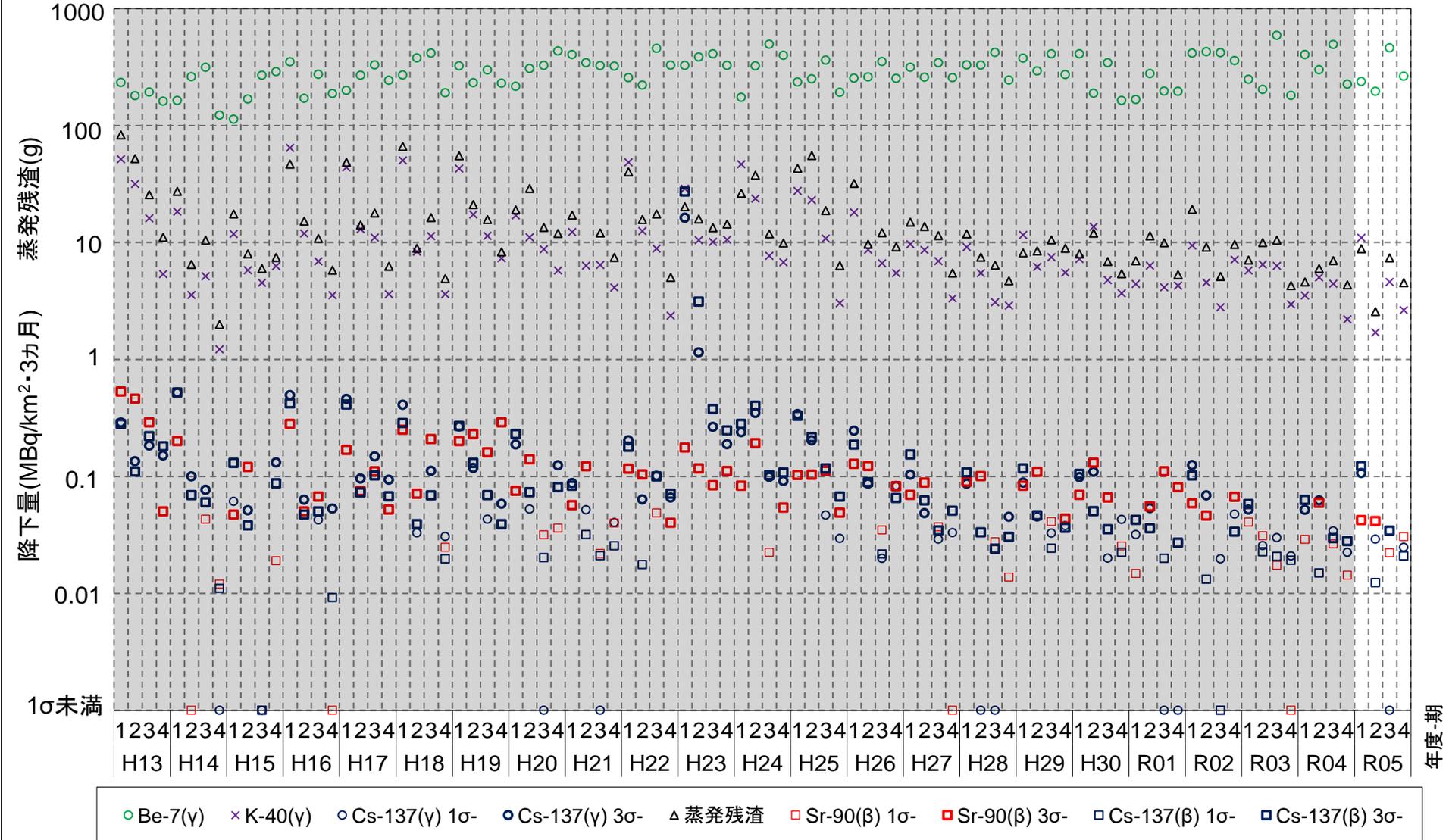
大気降下物

単位: MBq/km²

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隠岐	R5/3/22-6/28	(< 0.09)	0.070 ± 0.018	110 ± 2	0.081 ± 0.015	0.059 ± 0.0092
	R5/6/28-9/27	(< 0.08)	(< 0.05)	42 ± 0.8	0.064 ± 0.014	(< 0.03)
	R5/9/27-12/22	(< 0.09)	(< 0.05)	210 ± 4	0.046 ± 0.014	0.025 ± 0.0078
	R5/12/22-R6/3/21	(< 0.1)	(< 0.06)	180 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)
五島	R5/3/28-6/23	(< 0.09)	(< 0.06)	420 ± 3	0.063 ± 0.014	0.032 ± 0.0080
	R5/6/23-9/25	(< 0.07)	(< 0.05)	160 ± 2	0.044 ± 0.011	(< 0.03)
	R5/9/25-12/25	(< 0.09)	(< 0.06)	160 ± 4	(< 0.04)	(< 0.03)
	R5/12/25-R6/3/22	(< 0.08)	(< 0.06)	330 ± 3	(< 0.04)	(< 0.03)

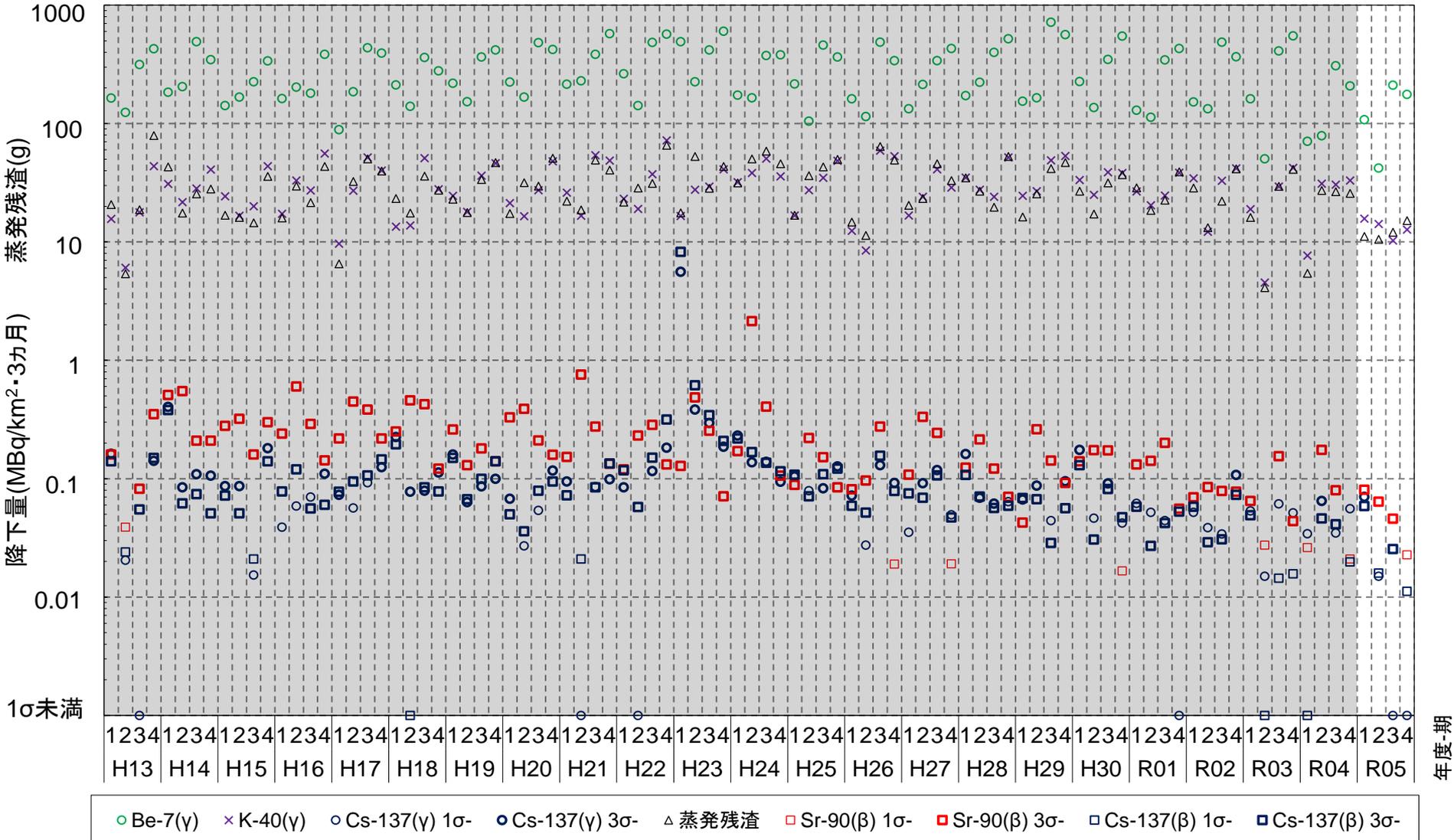
大気降下物

利尻測定所



大気降下物

隠岐測定所



土壌

γ線スペクトロメリー

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果			比較対象①			比較対象②		
		令和5年6月 - 9月			令和2年6月 - 9月			平成20年6月 - 9月		
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	上層	ND	3.7 ± 0.29	ND	ND	5.0 ± 0.31	ND	ND	6.8 ± 0.22	ND
	下層	ND	2.4 ± 0.26	ND	ND	1.5 ± 0.18	ND	ND	3.5 ± 0.24	ND
越前岬	上層	ND	1.6 ± 0.27	ND	ND	1.4 ± 0.24	13 ± 4.0	ND	2.6 ± 0.26	ND
	下層	ND	0.67 ± 0.21	ND	ND	1.1 ± 0.19	ND	ND	0.88 ± 0.21	ND
蟠竜湖	上層	ND	ND	ND	ND	1.2 ± 0.22	ND	ND	0.99 ± 0.25	ND
	下層	ND	0.74 ± 0.24	ND	ND	ND	ND	ND	0.69 ± 0.16	ND
檜原	上層	ND	44 ± 1.2	ND	ND	54 ± 1.1	ND	ND	63 ± 0.9	ND
	下層	ND	12 ± 0.7	ND	ND	17 ± 0.7	ND	ND	14 ± 0.5	ND

上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壌

放射化学分析

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果		比較対象①		比較対象②	
		令和5年6月 - 9月		令和2年6月 - 9月		平成20年6月 - 9月	
		⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	上層	0.71 ± 0.11	3.2 ± 0.16	1.0 ± 0.12	4.6 ± 0.19	1.8 ± 0.16	5.9 ± 0.22
	下層	0.38 ± 0.087	2.3 ± 0.14	0.43 ± 0.083	1.5 ± 0.12	0.85 ± 0.12	3.4 ± 0.17
越前岬	上層	0.31 ± 0.076	0.99 ± 0.099	0.47 ± 0.091	1.6 ± 0.12	0.60 ± 0.11	2.9 ± 0.16
	下層	0.32 ± 0.080	0.67 ± 0.084	ND	0.53 ± 0.078	0.43 ± 0.10	1.1 ± 0.10
蟠竜湖	上層	ND	0.45 ± 0.071	0.36 ± 0.085	0.55 ± 0.075	0.55 ± 0.098	0.64 ± 0.079
	下層	ND	0.32 ± 0.062	0.30 ± 0.080	0.30 ± 0.061	ND	0.56 ± 0.074
檮原	上層	2.6 ± 0.19	42 ± 0.6	3.0 ± 0.21	47 ± 0.6	9.2 ± 0.35	56 ± 0.7
	下層	1.0 ± 0.13	12 ± 0.3	1.9 ± 0.18	14 ± 0.3	2.1 ± 0.18	14 ± 0.3

上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

土壌

単位: Bq/kg乾土

採取地点	採取深度	試料採取日	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
			¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	上層	R5/7/13	(< 2)	3.7 ± 0.29	(< 20)	0.71 ± 0.11	3.2 ± 0.16
	下層		(< 1)	2.4 ± 0.26	(< 20)	0.38 ± 0.087	2.3 ± 0.14
越前岬	上層	R5/6/15	(< 2)	1.6 ± 0.27	(< 30)	0.31 ± 0.076	0.99 ± 0.099
	下層		(< 2)	0.67 ± 0.21	(< 20)	0.32 ± 0.080	0.67 ± 0.084
蟠竜湖	上層	R5/6/22	(< 2)	(< 0.8)	(< 20)	(< 0.3)	0.45 ± 0.071
	下層		(< 2)	0.74 ± 0.24	(< 20)	(< 0.3)	0.32 ± 0.062
檜原	上層	R5/6/8	(< 3)	44 ± 1.2	(< 50)	2.6 ± 0.19	42 ± 0.6
	下層		(< 3)	12 ± 0.7	(< 50)	1.0 ± 0.13	12 ± 0.3

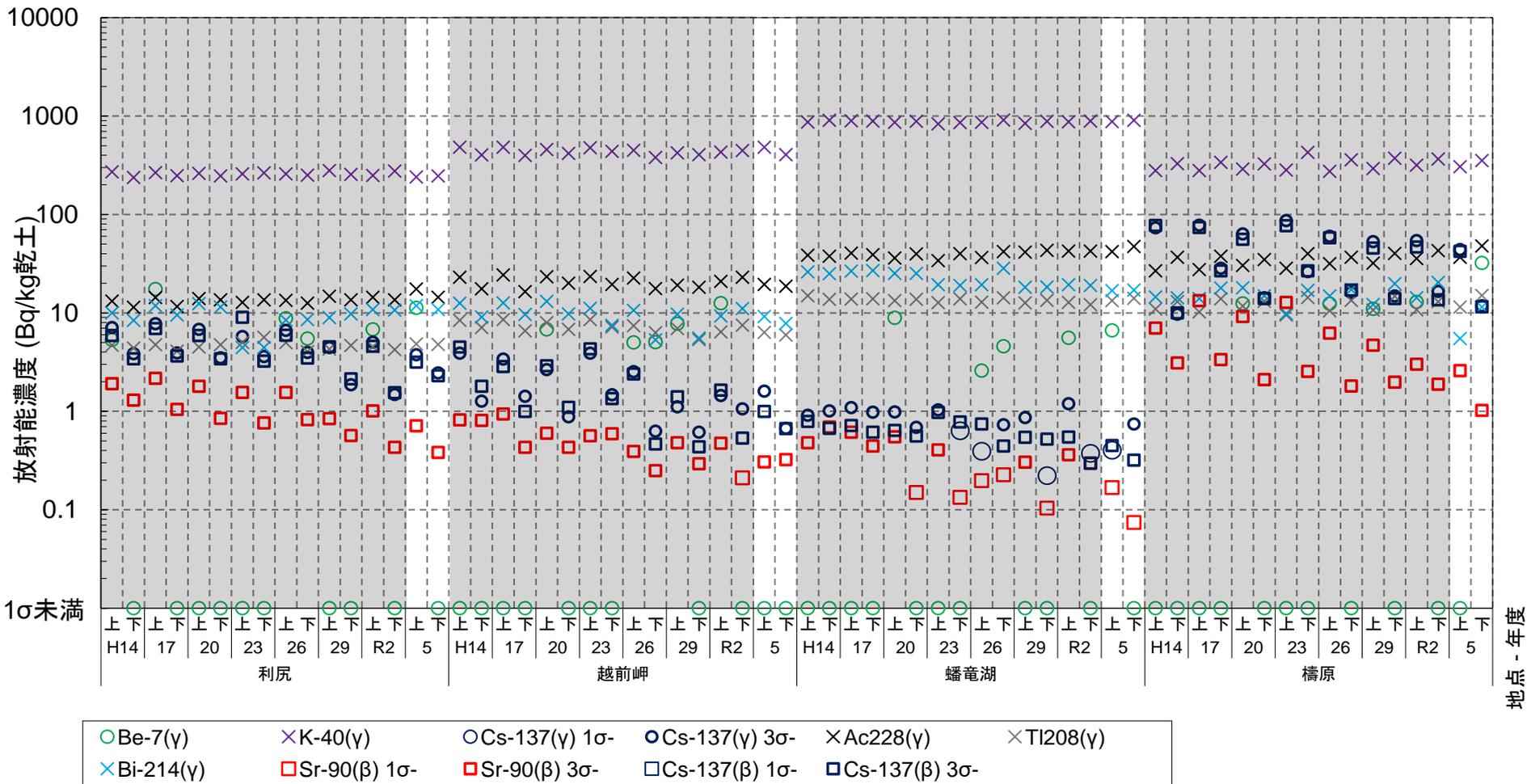
上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壤



上(上層)は0 - 5 cm、下(下層)は5 - 20 cm

陸水

γ線スペクトロメリー

単位: mBq/L

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和5年6月 - 9月			令和2年6月 - 9月			平成20年6月 - 9月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	ND	8.0 ± 0.22	190 ± 3	ND	6.2 ± 0.18	240 ± 4	ND	10 ± 0.2	170 ± 4
越前岬	ND	ND	ND	ND	0.27 ± 0.085	ND	ND	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	8.7 ± 1.3	ND	ND	21 ± 1.3	ND	ND	9.8 ± 1.2
檜原	ND	0.32 ± 0.085	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

放射化学分析

単位：mBq/L

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和5年6月 - 9月		令和2年6月 - 9月		平成20年6月 - 9月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	2.2 ± 0.17	7.6 ± 0.19	4.0 ± 0.19	5.7 ± 0.17	7.0 ± 0.27	10 ± 0.2
越前岬	0.50 ± 0.088	ND	0.34 ± 0.074	ND	0.76 ± 0.10	ND
蟠竜湖	1.6 ± 0.15	ND	1.4 ± 0.12	ND	2.8 ± 0.17	ND
檮原	0.40 ± 0.078	ND	0.23 ± 0.064	0.14 ± 0.041	0.80 ± 0.098	ND

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

陸水

単位 : mBq/L

調査地点	試料採取日	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
		^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be (参考)	^{90}Sr	^{137}Cs
利尻 オタマリ沼	R5/7/13	(< 0.4)	8.0 ± 0.22	190 ± 3	2.2 ± 0.17	7.6 ± 0.19
越前岬 梅浦川上流	R5/6/15	(< 0.5)	(< 0.3)	(< 5)	0.50 ± 0.088	(< 0.2)
蟠竜湖	R5/6/22	(< 0.4)	(< 0.3)	8.7 ± 1.3	1.6 ± 0.15	(< 0.2)
橋原 仲洞川	R5/6/8	(< 0.4)	0.32 ± 0.085	(< 5)	0.40 ± 0.078	(< 0.2)

放射化学分析は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を区別して測定できないため、試料中に ^{134}Cs が含まれている場合、 ^{137}Cs 放射能濃度に ^{134}Cs 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

^7Be は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

